

大学一般教育の諸問題

東洋大学	○	城戸 幡太郎
お茶の水女子大学	○	関野 豊三
国際基督教大学	○	小林 哲也
東京大学大学院	○	寺崎 昌男

昨年9月才20回学会大会大学制度部会において、日本における一般教育の現況と新大学制度成立後の一般教育問題の経緯、ならびに一般教育課程編成の原理論的考察について数名の参加員から集中的な研究発表がおこなわれた。その発表にたいする部会出席者の討議の中から、大学一般教育の問題にかんする教育研究者として、専門的・主体的な研究活動の必要が強調され、学会としての問題へのとりくみを積極的に行うことが確認された。本報告は、これらの要請をうけてなされる研究の一環として、昨年来大学制度研究委員会一般教育調査部門で行ってきた調査研究活動の中間的な報告である。内容は次の4部にわかれる。

- (1) 改革時における一般教育の導入過程にかんする歴史的研究 (寺崎)
- (2) 一般教育運営の実態にかんする報告 (I)
— 戦後調査文献・その他の資料から — (小林)
- (3) 一般教育運営の実態にかんする報告 (II)
— エキスペリメントとしての総合コースの実状と問題 — (関野)
- (4) 将来における一般教育のあり方 (城戸)

1. では、戦後新制大学の出発にあたって一般教育内容の編成方式を規定した「大学基準」におけるアカデミック・スタンダード条項の起草経過を中心として、一般教育の導入過程をあとづけ、検討することをめざす。OIEをはじめとする占領軍担当官の一般教育観、および大学基準協会、教育刷新委員会等における議事録を検討することによつて、一般教育の理念および方法の移入過程をみることを通じて、その問題点を析出する。又、当時衝に当つた日本側の当時者のヒヤリング等も行いたいと考えている。
2. では、昭和26年より35年にわたる10年間に行われた10数種の一般教育調査を素材として一般教育運営の推移と現況を俯瞰するとともに、IOUその他の大学当局者、学生等の意見調査、面接調査等を通じて、新制大学一般教育の現況と問題をさぐることを試みる。
3. お茶の水女子大学では、昭和31年以来、一般教育にたいする一つの試みとして「総合コース」が設置運営されてきている。国立大学におけるほとんど唯一の試みとして学内外からの期待の中に出発した試みであるが、内容・運営等の面で当面する壁もまた大きいといわなければならない。ここではまず履修手引、講義内容、運営の方式等を紹介するとともに、この試みの現況とその当面する問題にかんする報告を行う。
4. ここでは、大学における一般教育が現代において当面する課題と、展望とが問題提起され

る。大学一般教育を高等教育を受ける国民大衆のための新しい「自由学共」の教育であるとするれば、近代における科学の発展、なかんずくテクノロジーの発展にともなう知識・技術の内容がもりこまれ、学生の科学的認識の育成が見出されねばならない。又それは必然的に高校以下の教育過程編成ともかかわるものである。このような観点から、諸外国における一般教育の実験例等をも引きつつ将来にわたる問題が提起される。